

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

小規模多機能型法人名	社会福祉法人おぢや福祉会	代表者	理事長 田中 武弘	法人・事業所の特徴	当事業所は平成18年5月に一般住宅を改修し、日吉町内に小千谷1号店として開設し、平成29年4月に社会福祉法人おぢや福祉会として再スタートを切りました。 地域の中で小規模多機能の特性を活かせるように、利用者1人1人の生活パターンや家族状況に応じて通い・訪問・宿泊を柔軟に提供し、その人らしい生活を支えられるように取り組んでいます。 事業所内は家庭的な雰囲気を大切に、利用者と一緒に家事作業等を行い日常生活の関わりを継続できるような支援に努めています。 地域とは町内会に加入し、各行事等を通して親睦を深めています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ひよしの家	所長	渡辺 雅也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 事業所自己評価・ミーティング様式1～9参照	① 事業所自己評価・ミーティング様式1～9参照	① 改善したい事はたくさんあると思うが、目標に向かって取り組むことが大切。少しずつで良いので具体的に目標を立て、全員が明確に理解して取り組めると良い。 ② 自己チェックが低かった人を把握し、具体的な課題や改善点を聞いてみると良い。 ③ 対応に困っている、葛藤があるスタッフが自己チェックで低くなるかと思う。同僚や先輩から助言をもらえる場があると良い。 ④ 本人の興味や関心が分かり、その部分に関わるとより生活が満たされると思う。	① 「事業所自己評価・ミーティング様式」の改善計画を参照。
B. 事業所のしつらえ・環境	① コロナ禍で数年に渡り面会制限を実施してきたため、利用者と地域との交流が遮断されてきた。今後はコロナ禍前の当たり前であった、家族や地域の誰もが利用者に訪ねて来られる環境を作っていく。 ② 重度化リスクの高い利用者が生活する場でもあるため、引き続き感染症予防対策を徹底していく。	① 家族との面会は徐々に再開してきている。未だ感染症の流行があり、環境作りは難しい面もある。 訪ねてくる用事がない。 おぢや祭りの万灯や総合防災訓練など、訪ねて頂く機会を持ち、声をかけていく。 ② 利用者様のマスク着用は任意になったが、咳が出る時には着用してもらうなど、臨機応変に対応している。換気や消毒など清潔な環境を心掛け、予防に努めている。	① ひよしの家で何をやっているか分からないので、行ってみたいと思っている地域の人がいる。また、感染症でうつしてしまうのが心配なので、ボランティアに行きたいと思っても躊躇する。 ② ベースは穏やかな環境の中で安心して過ごせることに価値がある。自分だったら、疲れたら横になりたいし、何もしたくない。	① 小千谷祭りの万灯や総合防災訓練など、訪ねて頂く機会を持ち近隣との交流を図る。 ② 重度化リスクの高い利用者が生活する場でもあるため、引き続き感染症予防対策を徹底していく。
C. 事業所と地域のかかわり	① 来年度も、お囃子や万灯がひよしの家に来てもらえるようお願いする。 ② 地域の困りごとや相談ごとは、民生委員さんを通じて真摯に対応し、必要に応じて関連機関と連携する。	① 万灯やお囃子が来てくれることで地域の方々に訪ねてもらえる機会となっている。 祭りの気分を味わうことの他に、地域の方々や子ども達が集まり賑やかにすることで利用者様の楽しみにつなげることができている。 ② 地域で支援が必要になってきた高齢者の相談事は、民生委員を通して受けている。必要に応じてひよしの家で支援したり別事業所を紹介している。民生委員とのつながりを持つことで、お互いに気付きがあるので、今まで以上に連携を深めていく。		① 地域の困りごとや相談ごとは、民生委員さんを通じて真摯に対応し、必要に応じて関連機関と連携する。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の住所地を担当する民生委員さんを中心に、コミュニケーションを図り協力できる関係性を築く。 ② 利用者やスタッフが、地域のイベントに参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 独居や高齢者世帯の利用者が住む地域の民生委員との連携を図るため、挨拶を書面で行う予定にしているが、まだ実行できていない。個人情報に注意しながら、情報共有して行く。 ② 日吉町の行事などは参加しているが、市内の他の地域の参加は出来ていない。行事などに参加している利用者に偏りが出ている。偏りなく参加出来ると良い。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の住所地を担当する民生委員さんを中心に、コミュニケーションを図り協力できる関係性を築く。 ② 利用者やスタッフが、地域のイベントに参加できるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の心配な方等の事例検討が必要になった場合は、個人情報保護のため、運営推進会議と切り離して行う。 ② 運営推進会議を通して、地域からのご意見や困りごと等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 心配な方がいるかどうかは運営推進会議で話すこともあるが、具体的な内容は個人情報であるので、切り離して相談を受けている。 ② 運営推進会議に参加している民生委員や町内会長からご意見を頂いたり、困りごとや心配事がないか確認している。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の心配な方等の事例検討が必要になった場合は、個人情報保護のため、運営推進会議と切り離して行う。 ② 運営推進会議を通して、地域からのご意見や困りごと等を確認する。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 防災訓練等を通して、引き続き近所の方への参加を呼びかける。 ② 災害時、安全に外部へ避難できるよう環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害はいつ起こるか分からないため、地域の方々の力が助けになる。防災訓練を行う時は地域の方々に声をかけ、可能な限り参加して頂けるようにしている。地域の方々に、災害時の協力を呼びかける。 ② 日頃から整理整頓を心掛け避難のための動線を確保できるようにしている。玄関以外の非常口からの避難は、段差があり難いため検討が必要。防災訓練の反省を生かし、マニュアルの見直しを行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 防災訓練等を通して、引き続き近所の方への参加を呼びかける。 ② 災害時、安全に外部へ避難できるよう環境整備を行う。

